



地域医療連携室だより Vol. 146



発行元 地方独立行政法人
市立大津市民病院 地域医療連携室
住所 〒520-0804
滋賀県大津市本宮二丁目9番9号
電話 077-526-8192
FAX 077-522-0192 発行日:2021年7月1日

市立大津市民病院 検索

だより内に  が 5ヶ所登場しています。ぜひ探してみてください。疫病退散。

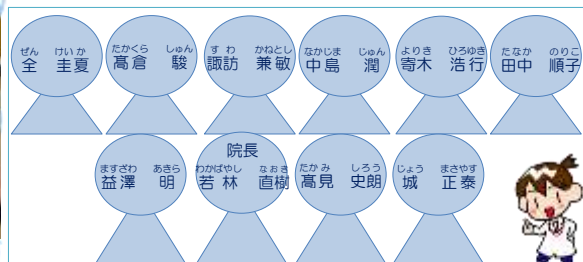
消化器内科のご案内

診療局長/消化器内科診療部長：高見 史朗 たかみ しろう



地域の先生方におかれましては、平素より大変お世話になり有り難うございます。

消化器内科は、若林院長以下 11 名のスタッフ（消化器病学会専門医 9 名、消化器内視鏡学会専門医 8 名、肝臓学会専門医 4 名）で診療を行っています。消化器内科診療の柱である癌診療と救急診療を中心に当科の診療について紹介させていただきます。



消化管領域は、全（消化器内視鏡センター長）、寄木らを中心に年間約 7500 件の通常上下部消化管内視鏡検査を行い、消化管癌の早期発見に務めています。また田中（健診センター長）を中心に大腸 CT 検査をいち早く導入し、年間約 450 件の検査を行っています。内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）は、食道、胃、十二指腸、大腸の早期癌に対して年間約 100 件、大腸粘膜切除術は年間約 1000 件施行しており、良好な成績を得ています。胆膵領域は早期診断が難しく難治性癌が多い領域です。中島、諏訪らは、年間約 250 例の超音波内視鏡検査、約 200 例の胆膵内視鏡検査を行い、EUS-FNA（超音波内視鏡下穿刺吸引法）、IDUS（管腔超音波検査）など先端の技術を駆使して膵臓癌の早期発見に挑んでいます。肝臓領域は、高見、益澤、城らを中心に、肝動脈塞栓療法（年間約 25 例）、ラジオ波焼灼療法（年間約 40 例）などの内科的治療を行っています。肝癌の母地となるウィルス性肝疾患、脂肪肝の治療にも力を入れ、肝癌の予防、早期発見を目指しています。近年は分子標的薬を中心とした化学療法が消化器癌の領域でもめざましく進歩しています。益澤（化学療法部診療部長）を中心に科内での討論を行いながらより良い治療を目指しています。消化器癌は守備範囲が広いですが、それぞれの領域で中堅クラス以上のエキスパートが揃っており、充実した診療をご提供できるのではないかと考えています。

救急診療については、病院のモットーである「24 時間・365 日体制」で臨んでいます。特に救急患者さんの多い当科では、毎日 2 名のオンコール体制を敷いています。昨年度は、当院が多くの発熱患者さんを受け入れたこともあり、例年以上に肝胆道感染症の患者さんの入院診療を行いました。社会の超高齢化に伴い消化器救急診療のニーズも高くなると思われれます。今後も万全の体制を整えて臨んでいきます。

昨年度上半期は、当時は全く未知であったウィルスの襲来を受け、内視鏡診療を中心に当科の診療も大きな打撃を受けました。しかし、徐々にその本体が分かり、感染対策を十分にとることで、現在は通常の診療体制で臨んでいます。昨年から続く感染状況のなかで、先生方と顔の見える関係を築くことが困難な状況が続きましたが、今後は感染が収束の方向へ向かい、以前のように先生方とお会いできることを願っております。今後とも宜しくお願い致します。



骨粗鬆症について

ーリスク患者さんには早めの対策をー

整形外科：小椋 明子



地域の先生方におかれましては、常日頃より当院の地域医療連携にご協力いただきありがとうございます。
当院整形外科では外来での保存療法と慢性疾患や外傷に対する手術療法を主に行っております。外傷患者さんの多くが、大腿骨や上腕骨の近位端骨折などの骨粗鬆症に由来する骨折です。これらの骨折は寝たきりの原因では脳卒中に次いで第2位であり、骨粗鬆症はWHOの定義では「低骨量と骨組織の微細構造の異常を特徴とし、骨の脆弱性が増大し骨折の危険性が増大する疾患」となっており、まさしく“骨折して痛くて寝たきりになる病気”です。

ただ、整形外科で検査や治療ができるのは、痛みがあって来院されるか骨折治療後の患者さんに限られているのが現状です。骨折治療後の患者さんは、実際に痛みや動けなかった経験があるので治療には比較的積極的です。一方で、骨折リスクがあっても現在痛みがない方や骨折の経験がないとなかなか検査や治療に至らないこともあります。たとえば、大腿骨頸部骨折患者の娘さん達に「遺伝や体型もリスクですよ」と骨密度の検査をすすめて、実際に検査を受けて頂けるのは1、2割くらいです。骨折前に骨粗鬆症の予防や治療をすることは一番重要なのですが、診断に至らない隠れ骨粗鬆症の方はまだまだたくさんおられると考えています。

骨粗鬆症のリスクはさまざま、よく知られているところでは以下の通りです。

1. 女性や閉経、思春期のダイエット、婦人科疾患（女性ホルモン減少）
2. 加齢（男女とも50歳くらいから骨量が減少）
3. 小柄な体型
4. 喫煙、過度の飲酒、食生活のかたよりの運動不足（生活習慣）
5. ステロイドの服用
6. 糖尿病
7. CKD（慢性腎臓病）
8. 胃切除後
9. COPD（慢性閉塞性肺疾患）



これを見ると骨粗鬆症のリスクは多くの診療科に及んでいます。また、この20年で大腿骨近位端骨折の男性の割合は年々増加（特に60-70代で）しており、実際に透析中やCOPD、胃切除後が目立ちます。女性はもちろんですが、リスクのある男性患者さんも理解して予防や治療をするに越したことはありません。その入り口はかかりつけの医院さんです。そこで地域の先生方には、リスクがある患者さんに対して骨粗鬆症の検査やスクリーニングをすすめていただき、一緒に地域の骨折・寝たきりを減らしていければと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



診療及び手術患者様ご紹介のお願い

こいけ すすし
眼科診療部長：小池 保志



平素より当院の眼科診療に多大なご協力をいただき、誠にありがとうございます。

以前にもお知らせさせていただきましたが、当科では手術予定患者様に対して手術予定日2週間前からの不要不急の外出及び大人数の集会に参加しない旨の依頼を徹底しております。また肺炎症状有無の問診を行い、場合によっては手術前に胸部CT検査で肺炎所見の有無を確認する等の感染拡大予防の対策を行っております。どこまで対策を講じても完全にリスクをゼロにはできないことは御理解いただけるとは思いますが、可能な限りリスクを減らした状況で眼科入院診療を行っております。

医療機関の皆さまにおかれましては、手術希望の患者様や治療に難渋しておられる患者様などがおられましたら、現在の当院の感染対策をご理解いただき、是非ともご紹介していただきますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

この未曾有のパンデミック感染症が一刻もはやく終息し、すべての医療従事者及び患者様が安心して医療の提供や享受ができる時が訪れることを切に願っております。今後も、“地域医療を守る病院”の眼科として、できる限り地域の皆さまのお役に立ち、地域医療を支え、少しでも多く地域の皆さま、地域医療機関の皆さまに貢献したいと存じます。何卒宜しくお願い申し上げます。



脳神経外科のご紹介

かわさき としなり
脳神経外科：川崎 敏生



平素より地域の皆様には当院の地域医療連携にご協力を賜り誠に有難うございます。

この度、脳神経外科に着任しました川崎敏生と申します。大学院で4年間の研究生活を送った後、2021年4月より脳神経外科診療に従事しております。

現在、脳神経外科では脊柱管狭窄症や椎間板ヘルニア、脊髄腫瘍等の脊椎脊髄疾患を中心に頭蓋内疾患も含めた幅広い脳神経外科分野をカバーしており、地域治療の一躍を担うべく日々診療に臨んでおります。また、疾患により入院中一時的に身体機能が低下した場合、治療後スムーズに退院後の生活を送れるようにリハビリテーション科と協力し、一人ひとりの症状に適したリハビリテーションを提供できるよう連携を強めています。

脳や脊髄の一部に損傷が起こるとその部位に関連した機能障害が起こりますが、リハビリテーションをすることによって、“損傷を受けていない部分”が“損傷を受けた部分”の機能を代償し、改善がみられることがあります。これには機能改善を担う脳や脊髄の可塑性とその機能ネットワークが関連しているのではないかとわれています。このことから、近年、特定の脳機能に関わる脳領域のみの研究から、同時に協調し活動する領域を“ネットワーク”という単位でとらえる研究が注目されています。機能的・構造的に機能ネットワークを調べることによって、その疾患の病態解明や治療法の開発につながると期待されています。私は大学院でこの分野を研究し、本研究により得られた結果は機能回復に関連したバイオマーカーになると共に、実臨床においてリハビリテーションの指標のひとつとして利用できるのではないかと考えています。これまでに培った知識を実臨床に還元し、また実臨床で経験する疑問点を研究で解決するという好循環をもって、新たな脳神経外科領域を切り開いていきたいと思っております。

脳神経外科スタッフ一同は、個々の患者様に対してベストな治療を行うことはもとより、その後のQOL向上に重きを置いています。そのためにきめ細やかなフォローアップを行うべく全力で対処して参ります。また、支援を賜ります医療関係者の皆様におかれましては、引き続きご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。何かございましたら、気軽にご相談頂ければ幸甚に存じます。今後とも宜しくお願い申し上げます。

2年目研修医 note



- ①名前：上田 智之（うえだ ともゆき）
- ②出身大学・卒業年度：滋賀医科大学 令和2年3月
- ③趣味・特技・好きな時間の過ごし方など：
筋トレ、プロレス鑑賞、家庭菜園、旅行、ゴルフ
- ④医師を目指した理由：
小説を読んでカッコいいなと思いました。
- ⑤どんな医師になりたいですか？：
患者さんからもまわりのスタッフからも話しかけやすい信頼できる医師
- ⑥研修医2年目の目標：
3年目に向けて下地をしっかりと作り上げていきたい。
- ⑦地域の先生方へのメッセージ：
平素よりお世話になり誠にありがとうございます。
まだまだ医師としても人としても未熟者ですが、精一杯がんばりますので
ご指導ご鞭撻の程何卒宜しくお願い致します。



① アマビエさん!? どうしたん!?

② コロナワクチン 2回目打った副反応で しんどいねん
：アマビエも ワクチン打つんや
打つ打たないは 個人の裁量だと思ふの：
マスクのむ?

③ 変異型とか出てきてるしな

④ アマビエさんには まだまだ頑張ってもらわなアカんし 今はゆっくり休んでね
ワクチン2回打つても 3密回避、マスク、手指消毒は継続やで!

※マスクは外して描いています

地域医療連携室より

令和3年4月より地域医療連携室に採用となりました平野久美子と申します。
3か月目になるのですが、まだまだ業務の全体は把握できるわけもなく日々新しい事柄ばかりの中ではありますが、周りの皆様に支えていただいておりますことに感謝いたします。
業務内容に地域の医療機関との連携強化をはかるため医療機関訪問という重要な任務を控えております。新型コロナウイルス感染症は未だ収束が見えない状況ですが感染対策を徹底させ今年も短時間での訪問を実施させていただく予定です。
私自身、先日小学二年生（次女）のバドミントンの全国大会出場をかけた試合観戦に行くことができました。1年生から6年生が参加のなか選手達の姿をみて、逆に励まされている気持ちとともに、より一層のサポートを心がけたいという気持ちになりました。個人プレーの競技ではありますが、指導者・保護者・選手のチーム力も強く感じました。
今後とも、皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

ひらの くみこ
地域医療連携室：平野 久美子